vinetur

イタリアワイン、13の新興市場で輸入額が5.9%増 市場全体は縮小

Nomismaによると、2026年上半期、対象国のワイン輸入額は合計で3.7%減少した

2026年11月18日（水）



Nomisma Wine Monitorが11月17日（火）にローマで発表した分析によると、2026年上半期、イタリアワインは13の新興市場でシェアを伸ばした。一方、これらの国々全体ではワイン輸入が減少した。

調査によると、対象13市場へのイタリアワインの輸入額は、2026年上半期に前年同期比5.9%増加した。同じ期間に、対象国全体のワイン輸入額は3.7%減少した。この数字は、これらの市場でイタリアの供給業者が市場全体を上回る実績を上げたことを示している。

分析結果は、Consorzio Italia del Vinoが主催する「Win& - Mostra della Cultura del Vino Italiano」の期間中に発表された。同イベントは11月17日（火）と18日（水）の両日、ローマ

のHorti Sallustianiで開催。主催者によると、企業、機関、大学、研究者が一堂に会し、ワイン業界の変化やイタリアのワイン供給網の成長見通しについて議論する場として企画された。

Consorzio Italia del Vinoによると、同団体にはイタリアのワイン関連企業24社が加盟しており、合計売上高は18億ユーロを超える。イタリアのワイン輸出の約15％を占めている。

イベントに合わせて公表されたデータでは、上半期の比較対象となった13の新興市場の国名は明らかにされず、結果も数量ではなく金額ベースで示された。このため、輸入支出の変化は分かるものの、価格、商品構成、為替レートの影響をそれぞれ切り分けることはできない。

Nomismaの分析は、より長期で見ると、複数の個別市場でイタリアワインが大きく伸びたことも示した。調査によると、2015年から2025年にかけて、イタリアワインの輸出はルーマニアで507％、トルコで325％、ベトナムで264％増加した。同期間に世界のワイン貿易は45％拡大したという。

一方、イタリアにとって最も重要な海外市場の一つである米国では、大幅な落ち込みが見られた。Nomismaによると、2026年1～9月の米国におけるイタリアワインの輸入額は18.4％減少し、米国のワイン輸入額全体も18.1％減と、ほぼ同じ幅で落ち込んだ。

対照的に、ブラジルではイタリアワインが市場全体を上回った。分析によると、2026年1～9月のブラジル向けイタリアワイン輸入額は6％増加した一方、同国のワイン輸入市場全体の伸びは2.1％だった。

ローマで発表されたデータには、国内消費の底堅さを示す兆しも含まれていた。Nomisma Wine MonitorがIstatのデータを用いて算出したところ、2025年におけるイタリアの人口に占める定期的なワイン消費者の割合は39.3％だった。また、2026年1～9月の大規模小売店における伝統方式のスパークリングワイン販売量は、2025年の同時期と比べて12.3％増加した。

こうした数字が発表された背景には、イタリアの生産者が従来の主要輸出先以外への多角化に、これまで以上に目を向けている状況がある。13の新興市場で伸びる一方、米国では減少しており、一部の主要市場が弱含む中でも、生産者が新たな市場で需要を取り込んでいることがうかがえる。

Nomismaは、貿易の流れや消費者行動、国際競争の変化にイタリアのワイン業界がどう対応しているかをめぐる、より広範な議論の一環として分析結果を発表した。成熟市場の一部で業界が引き続き圧力にさらされる一方、輸入需要全体が軟調な複数の国で、イタリアワインが存在感を高めていることを数字は示している。

発表資料には、言及された市場の輸入額や輸出額の実数は示されず、新興市場のグループ分けに関する詳細な方法論も記載されていなかった。それでも上半期の比較では、対象国全体のワイン輸入額が減少する中、イタリアワインの輸入額は増加し、その差は9.6ポイントに達した。これは、対象市場におけるイタリアの相対的な強さを裏付けている。